



問一 次の問いに答えなさい。

- (ア) 次の1～4の各文中の—線をつけた漢字の読み方を、ひらがなを使って現代かなづかいで書きなさい。
- 1 職人が丁寧に仕事をする。
  - 2 校庭の鉄棒で懸垂を行う。
  - 3 画壇の巨匠として名声を得る。
  - 4 広場で人々が憩いのひとつときを過ごす。

(イ) 次のa～dの各文中の—線をつけたカタカナと同じ漢字を含むものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 彼とはキユウチの仲である。
- 1 五月のレンキユウの予定を決める。
  - 2 班ごとにキユウシヨクを楽しむ。
  - 3 文化祭の企画をガツキユウで話し合う。
  - 4 資料館でキユウシキの機械を見る。
- b 一年間のガイユウで見聞を広める。
- 1 公園にユウグを設置する。
  - 2 今季限りで監督がユウタイする。
  - 3 姉妹都市とユウコウな関係を築く。
  - 4 にわかにも空が曇ってユウダナになる。
- c 気分転換にタイソウをする。
- 1 荒れた海で漁船がソウギョウする。
  - 2 辺りはイツソウにぎやかになる。
  - 3 魚は市場からチヨクソウされる。
  - 4 子ども向けの物語をソウサクする。
- d 国王から勲章をサズかる。
- 1 お年玉を銀行にヨキンする。
  - 2 大学のキョウジユの話を書く。
  - 3 思い出の写真をカクダイする。
  - 4 体育祭の仕事をアンタンする。

(ウ) 次の例文中の—線をつけた「ばかり」と同じ意味で用いられている「ばかり」を含む文を、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

例文 あとは彼の到着を待つばかりだ。

- 1 雨が降りださんばかりの天気だ。
- 2 油断したばかりに失敗した。
- 3 餅ばかり食べると胃が重くなる。
- 4 演奏は始まったばかりだ。

(エ) 次の短歌を説明したものとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

ひまはりのアンダルシアはとほけれどとほけれどアンダルシアのひまはり 永井 陽子

- 1 目の前に広がるひまわりを一望し、はるばるアンダルシアという遠い場所まで来た苦労が一瞬で吹き飛んだ感動を、ひらがなとカタカナによる表記と字余りによって効果的に表現している。
- 2 アンダルシアの地に咲くひまわりを見たいと思うが、心で思い描く風景の方が美しいのではないかという理想と現実の隔たりを、冒頭と末尾に「ひまはり」を置くことで視覚的に表現している。
- 3 かつて訪れたアンダルシアのひまわりの光景を思い出そうとするものの、あまりに遠い過去なので印象が薄れつつあるさまを、「とほけれど」を繰り返すことにより象徴的に表現している。
- 4 名所として有名なアンダルシアに咲く一面のひまわりを見に行くにはあまりに遠いが、一目見てみたいという強い憧れを、上の句の語順を変えて下の句で繰り返すことにより印象的に表現している。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「主人」が大切にしている犬にかみつかれた「下人（主人に仕えている者）」は、その犬を切りつけてしまった。怒った「主人」は、「下人」を処罰しようとした。

そのまま逃げて近きところの寺に行き、住持の僧にこのよしつぶさに言ひて頼みければ、この僧か下人を深く隠しおき、主人にいろいろ詫言せられしかども承引なく、「是非とも成敗せん。」と言はれしに、僧の言ひ分に、「それは道に違ひたることなり。」と言はれしかば、主人聞いていよいよこれに腹立し、「いかに御坊、御身は出家の上のことをこそ知りたまふべけれ、侍の下人を仕ふ作法何として知りたまはん。いらぬことに肝を入りたまふな。」とあらけなく言ふ。

そのとき、かの僧答へてはく、「もつとも拙僧は身の上の仏法をさへ万が一も存ぜず。いはんや武家の作法を何として存すべき。さりながら承り及ぶ論語とやらんに、『馬屋焼けたり、子朝より退いてのたまはく、人を損なへりやと言ふて馬を問はず。』と有りげに候ふ。この心は馬屋の焼亡せしに、孔子馬のことをば御尋ねもなく、まづ人は損じざるかと仰せられしとなり。これにて畜類よりは人間が大切なるものといふことを知りたまふべし。畜類より何ほど人が大切なると言ひても、科なきに殺したらば、その科逃れがたし。この者は犬に食はれて、前後の分別もなく切りたるなれば、成敗までには及ぶまじ。またその方も下人なればこそ成敗とはのたまへ、誰にてもあれ、その方の傍輩中にかの犬食いつきたらば、傍輩をも成敗せらるべきや。そのときは犬を殺さるる上に、詫言をせらるべし。これ程の理面をさしおけて、我が下人なればとて無理をば言はぬものにて候ふ。あいこまへてたしなまれよ。」と言はれしかば、主人成敗を止められけり。

(「身の鏡」から。)

(ア) 線1「いよいよこれに腹立し」とあるが、「主人」が腹を立てた理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 大切にしていた犬を「下人」に切りつけられたうえに、「下人」をかくまう「僧」に自分の行為が道理に反すると言われたから。
- 2 処罰しようとしていた「下人」を「僧」に隠されたうえに、武家の作法を根柢にして筋道を立てなければならぬと諭されたから。
- 3 仏の道を振りかざす「僧」にしつこく説法されたうえに、犬を切りつけた「下人」からもあまりに処罰が重すぎると抗議されたから。
- 4 犬がかみついたのは飼い方を間違えたからだとして「僧」に説教されたうえに、犬を切りつけた「下人」にもどこかに逃げられたから。

(イ) 線2「人を損なへりやと言ふて馬を問はず。」とあるが、それを説明したのものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 馬屋が焼けたときに「孔子」は、馬よりも人を傷付けてしまったことを後悔したということ。
- 2 馬屋が焼けたときに「孔子」は、馬の行方よりも火事を起こした人の立場を心配したということ。
- 3 馬屋が焼けたときに「孔子」は、馬のことよりも人の安否を気遣ったということ。
- 4 馬屋が焼けたときに「孔子」は、馬よりも火事による建物の損失を人に嘆いたということ。

(ウ) 線3「これ程の理面」とあるが、その具体的な内容として合っていないものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「孔子」の故事にあるように、畜類よりも人が大切である。
- 2 罪のない犬を殺したら処罰されるが、「下人」は犬にかまれて切りつけたのだから仕方がない。
- 3 犬が「下人」でなく仲間にかみついたならば、犬を殺されるうえに謝罪もしなければならない。
- 4 「下人」の立場で「主人」の犬に切りつけたことは、謝罪しなければならない。

(エ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「下人」は、近所の寺に逃げ込み「僧」に保護を求めたあと、犬を切りつけたことを「主人」に直接謝罪したが、聞き入れられなかった。
- 2 「主人」は、「下人」をかくまう「僧」に初めのうちは強い反感を覚えていたが、理路整然と諭されたことによって自分の考えを改めた。
- 3 「僧」は、「主人」から「下人」をかくまっていることを厳しく責められ、作法に基づいて人としてあるべき道を説いたが、効果がなかった。
- 4 「傍輩」は、「僧」から事件の経緯を聞いて、そもそも「下人」が犬に余計なはずらをしなければ騒動にならなかったと苦言を呈した。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本橋の菓子屋「二十一座」の「小萩(おはぎ)」は、「徹次」の一人息子の「幹太」に勧められて稽古のつもりで菓子をつくっている。「二十一座」には、隠居した「じいちゃん」と菓子職人の「伊佐留助」がいる。

小萩にとつての海は、穏やかなばかりではない、時に恐ろしい力をみせるものだ。

だから日本橋に来たばかりの頃、江戸の海が穏やかすぎて物足りなかった。風の強い、大粒の雨が降っている日に、わざわざ海を見に行つたことがある。白い雨あしに抗うように大きくうねる海を見ていたら、なんだか気持ちが安らいだ。

朝焼けの海を菓子にするなら、そういう風景を描きたい。

小萩は白あんを紅で染めた。黄を加える。

紅や黄、青や白や紫に染めたあんを米のように細くのぼし、ねじりながらより合わせて型に置き、透明な錦玉を流すつもりだ。少しの加減で色が変わる。思い浮かべた色を指先に伝えるのは難しい。つかまえようとすると、するすると逃げていく。小萩は夢中になった。

はっと気づくと、幹太に呼ばれていた。

「夢中になると気がつかないんだな。」

「ごめんなさい。」

「いよ、いい感じになつたじゃないか。ここに錦玉を流すか。」

小萩は首を傾げた。

「でも、なんだか違う。」

「どんなところが？」

「田舎の海は荒くて、黒いごつごつした岩に波がざぶん、ざぶんとぶつかる。波がくだけで、白い泡になつて飛び散る。目の前の海は暗くて恐ろしいけれど、空は明るく華やかでお祭りのよう。」

幹太はこしあんに引つ掻いたような模様をつけておいた。

「こんな感じか？」

さらに蜜付けの小豆を持って来てあんにのせた。

「こうすると、岩っぽいだらう？」

それを型の下において薄墨色の錦玉液を流した。少し固まったところで色をつけたあんをのせて、今度は透明な錦玉液を流した。

それから二人で錦玉が固まるまで縁側で待った。

「おはぎ、ぶきつちよなのは気にするな。じいちゃんがいつも言っている。ぶきつちよな奴は人の二倍、三倍練習するからいいんだって。おいらみたいに小器用なのは、中途半端なところで満足しちまうから大成しないって。」

「そんなこと、ないでしょう。だって、幹太さんのつくる菓子は粋なもの。すぐ分かる。」

へへ、と幹太は照れた。

同じように見える大福や生菓子でも、この頃、小萩は誰がつくつたものか分かるようになった。徹次のものは角がすばりと決まって狂いが無い。へらで入れた筋に勢いがある。伊佐は真面目につくつてあるが、

どこか固く余裕が感じられない。余裕があり過ぎるのが留助で、時々徹次に叱られている。幹太は無心だ。

上手につくろうとか、いい形にしようとかまったく思っていないらしい素直な感じが出ている。

「まだ、<sup>(送)</sup>見世のこと、嫌い？」

「そうでもないな。この頃は、菓子屋を継いでもいいと思ってる。」

「それを聞いたら、おかみさんが喜ぶわ。」

「よく考えたらさ、おいら菓子屋の仕事なら一通りは出来るんだぜ。他の仕事についたらまた、一から覚えなくちゃなんねえ。大変だよ。それにさ、<sup>(送)</sup>伊勢松坂から来てた小僧の様子見たら、もうがっかりだ。やっぱり、親の見世にいるのは楽だな。」

口では悪ぶっているが、幹太なりに見世のことを大切に思っているに違いない。

錦玉が固まったので、そつと型から取り出した。

暗い海と対照的な明るい空が小さな菓子の中に描かれていた。小萩の仕事だから稚拙なところがあるが、それが荒々しい海の朝焼けの様に合っていた。小萩の考えを上手にまとめてくれた幹太の力も大きい。

「結構、よく出来たな。あとでじいちゃんに見せよう。」

幹太は菓子箱にきれいに並べた。

<sup>(送)</sup>菓子比べの日が来た。

二十一屋の徹次と留助、伊佐、幹太、小萩の五人は早朝、<sup>(送)</sup>霜屋の別郎に出かけた。前に来たことのある茶室を通り過ぎると、木立の向こうに<sup>(送)</sup>数寄屋造りの母屋が見えた。

判定をくださるのは、江戸の主だった七人の茶人たちで、三々五々集まり、まずは懐石をいただき、霜屋が亭主となって茶会があり、舞が披露され一日を楽しむ。

その間、六軒の菓子屋は東西に分かれ、それぞれ与えられた<sup>(送)</sup>水屋で菓子を用意する。

小萩は見慣れない箱が一つ混じっていることに気づいた。そつと蓋をずらすと、黄と青がちらりと見え

た。中を確かめると、昨日、小萩と幹太が二人でつくった菓子が入っている。幹太の仕業に違いない。

「どうした？ 何があつたか。」

伊佐がたずねた。

「何でもありません。」

小萩はあわてて蓋をした。見つかったら叱られる。どこかに捨ててしまおうかと箱を持って水屋を出た

が、適当な場所がない。うろうろしているうちに庭に出た。広縁に女が座っていた。

ひわ色の<sup>(送)</sup>繪子の着物に濃い紫の地に刺繍の入った贅沢な打掛をしていた。まるで大名の奥方のように見える。けれど髪型も襟の抜き方も帯の締め方も、武家の女とはどこか違ったなまめかしさがある。

「何をしている。こちらにおいで。」

細く長い指が優雅に揺れて手招きされた。

抗うことのできない力のようなものがあつて、小萩は吸い寄せられるように近づいた。小さな顔に形のいい鼻とぼつとりと厚みのある口があり、きつねのように目尻のあがつた細い目をしている。肌は日に当たったことのないのではと思うほど、白く透き通っていた。黒々としてつやのある髪を大きく高く結び、何本もの櫛やかんざしで飾っている。

「何が入っているのかい？ 見せてごらん。」

小萩は箱の蓋を開いた。

「ほう。きれいな色だねえ。これは菓子だろう。」

女は懷紙を取り出すと、菓子を一つのせて、日に透かした。

「私のふるさとの海の朝焼けを思い出してつくりました。冬の海はこんな風に荒々しく、空にたくさん色が出ます。」

「そうか。ずつと昔、まだ、子供だった頃、こんな風景を見たような気がする。敵かで、怖いような、うれいような不思議な気持ち。<sup>(送)</sup>菓銘は何だい？」

小萩は少し考えて答えた。

「朝焼けです。」

「菓銘に色気がないねえ。せめて<sup>(送)</sup>嘯としたらどうだい。ほら、橋姫のかたしき衣さむしろに待つ夜むなしき宇治の嘯、なんて歌があるじゃないか。」

女は和歌をそらんだ。

「必ず来るつて約束したのに、恋しい人は来ない。とうとう朝になってしまったつて歌だ。嫌われてしまったのだからつていう不安な気持ちと、会つたらあんな話をしよう、こんなことも聞こうつていう甘やかな思いがない交ぜになつているような感じにも見えるよ。」

同じ菓子でも人によつて受け取り方が違う。<sup>(送)</sup>小萩は思いがけない言葉に目をしばたかせた。

「そうか。お前さんは、まだ、そんな思いをしたことがないか。」

女が笑うと、狐の目が細く糸のようになった。紅を差した目元に匂うような色気がある。

「ここにはいましたんか。あつちで<sup>(送)</sup>白梅はんが待つたはりますえ。」

見覚えのある長身で白髪の方がやつてきた。<sup>(送)</sup>東野若紫の当主の源右衛門だつた。今日は黒紋付に<sup>(送)</sup>織袴で正装している。

「この娘が菓子を持っていたので、見せてもらつていたんだよ。」

「ほお。」

源右衛門は穏やかな目で小萩を見た。

「前にいつべん、店に来た人やな。二十一屋の<sup>(送)</sup>女子衆か。」

「はい。」

「この菓子は誰がつくらはつたんや？」

「私ともう一人でつくりました。稽古のつもりだつたのですが、なぜかこちらに紛れ込んでおりました。」

源右衛門は菓子を受け取ると、ゆつくりと眺めた。<sup>(送)</sup>眼差しが鋭くなった。

「色の合わせ方が面白い。これは何を描いたんや？」

「私のふるさとの冬の朝の海です。」

源右衛門はまだ菓子を見ている。小萩は恥ずかしくなつて下を向いた。

「腕の方はまだまだやな。そやけど、筋は悪くない。菓子が好きか？ 職人になりたいんか？」

源右衛門は小萩に向き直つてたずねた。人の心の中まで見通すようなまつすぐで強い目だつた。思わず顔を伏せた。

「菓子は好きです。でも不器用だし、職人には向かないかもしれません。」

「そう思うんなら、止めた方がええ。そんな簡単なものと違う。だけど、もう、この道しかない、自分はほんまにこの仕事で生きていくんやと思えるんやつたら、不器用やろうが、関係あらへん。言うても、わしのご託宣はあんまり当たらへんかもしれへんけど。」

小萩ははつとして顔をあげた。源右衛門はやさしい目で見つめている。その顔がにじんで見えた。胸がときどきして、足が震えてきた。そんなこと、今まで誰にも言われなかった。自分でもとうてい無理だと思っていた。でも、今日、初めてやってみればと言ってくれた人に会えた。しかも、その人は東野若紫の当主だ。

「ありがとうございます。」

小萩は箱を抱えると、駆け出した。

(中島久枝「いつかの花」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 錦玉 〓 寒天を煮て溶かし、砂糖を加えたもの。また、それが固まったもの。

見世 〓 店のこと。伊勢松坂 〓 江戸の上生菓子売りの店の名。

菓子比べ 〓 菓子の味を比べてどちらが優れているかを決めること。ここでは、茶人の「赤緒」と「白笛」の言い争いが元で、京菓子和江戸菓子のどちらが優れているか、六軒の菓子屋が東西に分かれて勝負をすることになり、「二十一屋」も参加している。

霜屋の別邸 〓 「霜屋」という茶人が所有する茶室。

数寄屋造り 〓 茶の湯のための建物。水屋 〓 茶の湯の用意をする台所。

菓銘 〓 最中や羊羹など和菓子の種類とは別に、短歌や俳句などをふまえて菓手に付ける名前。

東野若紫 〓 京菓子店の名。室町時代から続いており、源右衛門は十五代目当主である。

(ア) 〓 線 1 「つかまえようとすると、するすると逃げていく。」とあるが、そのときの「小萩」の説明として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 錦玉を流すことで変化する和菓子の奥深さを体験しつつ、理想の形に仕上がるまで調整している。
- 2 力の入れ方で崩れてしまう和菓子の難しさを実感しつつ、錦玉が固まるまで型を押し込めている。
- 3 少しの加減で変わる和菓子の繊細さを痛感しつつ、思い通りの色にしようと作業に没頭している。
- 4 ねじり合わせ方によって姿を変える和菓子の世界を満喫しつつ、微妙な色合いを楽しんでいる。

(イ) 〓 線 2 「小萩は誰がつくつたものか分かるようになった。」とあるが、その説明として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 職人がつくる菓子には、同じ名前でも店ごとに特徴があり、「小萩」はそれぞれの違いを把握するほど詳しくなったということ。
- 2 職人がつくる菓子には、それぞれの個性が自然に現れており、「小萩」はその微妙な違いを認識できるほど成長したということ。
- 3 職人がつくる菓子は、日によつて見た目が微妙に異なり、「小萩」はその日のできばえを評価できるほど修行を積んだということ。
- 4 職人がつくる菓子は、見た目がまるで異なり、「小萩」は菓子を通して職人の人柄を把握するほど店にとけこんでいるということ。

(ウ) 〓 線 3 「小萩は思いがけない言葉に目をしばたかせた。」とあるが、そのときの「小萩」の気持ちを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「小萩」は、この菓子で幼少時の懐かしい記憶を描いたつもりだったが、「女」と出会って菓子の構想を理解してくれる人がいることを知り、心から感動している。
- 2 「小萩」は、この菓子で冬の海の荒々しさを描いたつもりだったが、「女」と出会って自分の解釈を押しつけてくる人がいることを知り、厚かましいと反発している。

3 「小萩」は、この菓子でふるさとの海の朝焼けを描いたつもりだったが、「女」の話を知り、驚いている。

4 「小萩」は、この菓子で恋しい人を慕う思いを描いたつもりだったが、「女」の話を知り、菓子に込めた意図が伝わらないことを知り、己の力不足を嘆いている。

(エ) 〓 線 4 「眼差しが鋭くなった。」とあるが、そのときの「源右衛門」を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 稽古のつもりでつくつたと聞いたが、ゆつくりと眺めているうちに、菓子の色づかいの非凡さに気付き、よく吟味しようとしている。

2 稽古でつくつたという話を聞いて、腕の未熟さは仕方ないと思いつつ、菓子の色のちぐはぐさをどのように慰めようかと思案している。

3 なぜか紛れ込んでいたという話にもかかわらず、意図的に持ち込んだ形跡を確認し、専門家の批評を望むならば見てやろうとしている。

4 なぜか紛れ込んでいたという話のはずなのに、真剣な菓子比べの場に稽古の菓子を出す計画であることを知って、怒りを覚えている。

(オ) 〓 線 5 「ありがとうございます。」とあるが、ここでの「小萩」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「源右衛門」から菓子職人として認められただけではなく、東野若紫と取引ができるようになったのは、周りの支えのおかげであると感謝するように読む。

2 予想だにできなかった「源右衛門」の厳しい言葉に思わず涙をこぼしそうになりながら、その場を一刻も早く離れたい気持ちを外に表さないように読む。

3 仕事に人一倍厳しいと言われる「源右衛門」から自分の菓子の色の合わせ方を認められて、すっかり有頂天となり、周りを気にせず屈託のないように読む。

4 「源右衛門」の言葉に、あきらめかけていた菓子職人の道を目ざしてもよいという励ましのようなものを感じ、うれしさから涙をおさえるようにして読む。

(カ) この文章について述べたものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 不器用な自分に悩んでいる「小萩」が、周りの人々の助けを借りながら自信を取り戻し、明るく生きようとするさまを、それぞれの登場人物の視点から表現している。

2 菓子づくりに魅せられた「小萩」が、周りの人々の人情に触れながら、ひたむきに生きようとするさまを、会話文や事物を細やかに描写することによつて表現している。

3 おとなしい「小萩」が、周りの人々との関係に悩みつつも、豊かな発想を生かして菓子職人として自立しようとするさまを、菓子の巧みな描写を交えて表現している。

4 経験の浅い「小萩」が、菓子比べに出品したことをきっかけに、菓子職人として著名な茶人に認められていくさまを、会話文を多用しながら生き生きと表現している。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人類の歴史において長いこと、人々は社会のあるべきモデルを未来ではなく、過去に求めてきました。政治や社会が混乱におちいるたびに、人々は古きよき時代の、父祖の伝統にさかのぼろうとしたのです。

西欧においてしばしばモデルにされたのは、古代ギリシヤやローマの伝統です。東アジアにおいても、堯・舜・禹といった伝説の帝王の事績が参照されたり、あるいは古代の周の時代が規範になつたりしました。

ところが、一七世紀の終わりから一八世紀にかけて、主としてフランスで「古代人・近代人論争」なる議論が沸き起こります。古代の著作家、たとえば古代ローマの詩人ヴェルギリウスに対し、ルイ十四世治下のフランス文学者たちは決して劣らないのではないか。いやむしろ、より優れているのではないか。他愛もない論争にもみえますが、このあたりから、「人類社会のモデルは過去にある」という発想が揺らぎだしたのです。A 彼らは「進歩」という理念を発展させ、人類は未来に向かって発展していると主張するに至つたのです。

このような発想はやがて進歩主義とよばれるようになります。一八世紀の啓蒙思想は、人類は理性の力で、無知や野蠻を克服していくことができると主張しました。フランス革命によつて開幕した一九世紀は、イデオロギーの時代ともよばれますが、自由主義や社会主義といったイデオロギーは、それぞれに社会の発展の見取り図を描き出しました。人間の力によつて理想の社会が実現できるという発想は、「革命」の時代を出現させたのです。一七八九年のフランス革命から、一九一七年のロシア革命に至る一〇〇年余りの時代は、まさにそのような「イデオロギーと革命」の時代でした。

二〇世紀も後半になると、そのような革命への動きにはブレーキがかかります。とはいえ、欧米諸国を中心に経済成長への夢が熱く語られ、GDPという指標に注目が集まつたこの時代は、いまだ「進歩」を信じつづけた時代だったのかもしれませんが。しかしながら、一九七〇年代のオイルショックを機に多くの先進国で経済成長は鈍化し、「進歩」の時代の終わりが語られるようになりました。あわせて「近代」という時代区分が問い直されたのです。

ある意味で近代化も一段落したのであり、今後は経済成長とは異なる価値が追求されるべきではないか。近代化は環境破壊をはじめとして、悪しき側面ももつのではないか。近代社会の変容が感じられるようになったこの時期、B「第二の近代」が語られるようになりました。もちろん、「近代」が否定されたわけではありません。とはいえ、「近代」は、自らの生み出した変化の帰結を含め、あらためてその意義を問いなおされているのです。

その意味でいうと、「進歩」が「第一の近代」を主導する理念であつたとすれば、C「第二の近代」を動かす理念として、「希望」に注目が集まつているのかもしれませんが。「進歩」の理念が楽観的に、未来に向かつての発展を説いたとすれば、「希望」はむしろ、未来についてははるかに懐疑的です。

未来社会がどのようなものになるかはわかりません。それが人類にとってよりよいものであるかも、確かなことはいえません。D、未来はただ混沌としていたりとか、あるいは未来はただよくなつたり悪くなつたり繰り返したというばかりでは、前に進む力は生まれてきません。

未来に向かつて、人類の、そして一人ひとりの人間にとつての何らかの推進力が模索されるなか、そのような思いが「希望」という理念に託されているように思われてなりません。

このような希望の概念は、社会科学とどのようなかかわりがあるのでしょうか。

現在の社会科学において、希望と似た概念として「幸福」を指摘することができるでしょう。人々はいかなる条件のもとにあるとき「幸福」と感じるのか。主として、所得や経済成長と人々の幸福感との関係を探る研究が、「幸福の経済学」の名のもとで展開されています。よく知られているように、ある段階ま

では所得の伸びと、人々の幸福感とのあいだには、明らかな結びつきがあります。しかしながら、所得も一定の段階に達すると、幸福の増進にはつながらなくなります。人々は幸せを、経済的豊かさ以外のものに求めるようになるからです。個人の自由やコミュニティとの結びつき、健康や文化的な生活などがそれです。

それでは、幸福と希望とはいかなる関係にあるのでしょうか。一つ指摘できるのは、希望には時間という次元が入ってくるということです。幸福が現在の生活に対する満足を示すとすれば、希望にはいまだ実現していない未来へのかかわりが含まれます。すなわち、希望には、現状に満足せず、未来において何らかの変化を引き起こそうとする契機があるのです。「まだない」未来へのコミットメントこそが、希望の希望たる本質を成しているのです。▲

希望と対比できる概念としては、「未来予測」をあげることもできます。何らかの意味で未来を予測したり、そこで起きうる機会とリスクを計算したりすることについては、社会科学においてもさまざまな試みが行なわれてきました。しかしながら、ここまで述べてきたように、希望がむしろ、未来がはつきりと示されていない時代にこそ着目されてきたことを考えると、希望と「未来予測」や「リスク・マネジメント」などとを同一視することはできません。

現在の私たちは、未来について、きわめて見通しの悪い時代を生きています。二世紀以上にわたつて進歩主義が優位してきた「第一の近代」はもはや過去のものとなりました。そうだとすれば、E「私たちに必要なのは、安易に未来を語ることはありません。」

もちろん、人口や人々の寿命、社会保障や財政状況、さらにはAIがもたらす影響など、いろいろな未来予測が話題になっています。これらの予測には、確固としたデータに基づくものもあれば、むしろ数少ない要因から未来を強引に推測しようとするものもあります。いずれにせよ、それらの未来予測に基づいて、私たちは社会やそこでの自分の暮らしについての判断を行つていきます。あるいはそこでのリスクを減らすよう、努力しています。

とはいえ、本質的に見通しの悪い時代を生きている私たちは、限定された情報に基づいて未来をこうなるものだと思つて決めることには慎重であるべきでしょう。未来にはつねに不確実性があります。それは私たちにとつて不安をもたらすものであると同時に、可能性を感じさせてくれるものでもあります。

人間とは未来を完全に予測できても、逆に未来をまったく予測できなくても、生きていく力を得られない生き物です。人間はある意味で、自分が本当に何を希望しているのか、よくわからないままに行為し、行為ののちに自分の希望に気づくこともあります。人間の主体性そのものが、そのような行為の過程で変化していくからです。

社会科学の務めは、未来を完全に予測することでも、逆にそれをランダムな偶然的現象として捉えることでもありません。人間の知が何を、どこまで明らかにすることができるのか、逆に、どこからははつきりしたことをいえないのか。これらのことを自覚的に追究していくことが、社会科学の課題です。

今日、私たちは、目の前を進行するさまざまな危機に対し、ときにはひるんだり、あるいはおびえたりしながらも、それでも「いま」を生き、「いま」を変えようとしています。そのような「いま」の向こうには、何がみえるのでしょうか。かつての時代のように楽観的に進歩を信じることができないうとしても、かすかに「希望」はみえてこないでしょうか。

そのような「希望」は、「私たちのなかにすでにある力」を顕在化させることにあります。そしてそのような力をはつきりと見定めるためには、「社会科学」の力が必要なのです。

(宇野 重規「希望——「まだない」ものの力」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 啓蒙思想＝理性の啓発によって人間生活の進歩・改善を図ろうとした思想運動。

イデオロギ－＝人間の行動を左右する根本的なものの考え方の体系。

GDP＝国内総生産。

オイルショック＝石油価格が高騰し、経済が混乱した出来事。

コミュニティ＝地域社会。      コミットメント＝かかわり合い。関与。

リスク・マネジメント＝経営活動の危険を最小限に抑える管理方法。      AI＝人工知能。

(ア) 本文中の [A]・[B] に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- |         |        |          |       |
|---------|--------|----------|-------|
| 1 A まるで | B さらに  | 2 A やがて  | B しかし |
| 3 A すでに | B あるいは | 4 A おそらく | B ときに |

(イ) ー線1「『古代人・近代人論争』なる議論」とあるが、その議論の結果どのようなことが起きたのか。その説明として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 父祖の伝統の再評価により、規範に基づく社会を構築した一方、進歩そのものが停滞した。
- 2 政治や社会の混乱を収めるために、古代ギリシアやローマの業績を参照する考えが生じた。
- 3 古代人と近代人の優劣をめぐり、経済の発展を遂げた近代人が優れているという評価が定着した。
- 4 社会の規範を過去の伝統に求めず、人類は未来に向かって発展すると考え、進歩主義を生み出した。

(ウ) ー線2「そのような革命への動き」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 自由主義や社会主義などを掲げて社会の発展を模索し、人間の力によって理想の社会をつくりあげていこうという動き。
- 2 無知や野蛮を克服するために人間の知恵や理性を生かすのではなく、革命という手段に訴えて近代化を推進していく動き。
- 3 自由主義と社会主義が社会を発展させるそれぞれの手立ての正当性を主張し合うことで、両者の対立が深刻化していく動き。
- 4 産業革命により生産技術の変革が行われ、経済成長への道筋が整ったことで、物に恵まれた社会を表現していこうという動き。

(エ) ー線3「『第二の近代』が語られるようになりました。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「近代」に入ると欧米諸国を中心に、国の豊かさを比較する指標として国内総生産が使われるようになり、幸福の基準を経済の豊かさに求めるようになったということ。
- 2 「近代」が求めてきたこれまでの価値観を見直し、環境破壊など進歩によって生じた負の側面が表面化してきたことで、新たな意義が問い直されるようになったということ。
- 3 「近代」を問い直すとき、確かに経済的には豊かになったけれども、未来に対して懐疑的にとらえる傾向が強まって、近代化があらためて否定されるようになったということ。
- 4 「近代」は、未来への進歩を信じて進められたが、オイルショックを機に多くの先進国で経済成長が鈍化すると、別の成長の手立てが望まれるようになったということ。

(オ) ー線4「『第二の近代』を動かす理念として、『希望』に注目が集まっているのかもしれませんが」とあるが、筆者がそう考える理由を説明した次の文中の [I]・[II] に入れる語句として最も適するものを、本文中の▶から◀までの中から、[I] については九字で、[II] については五字でそれぞれ抜き出し、そのまま書きなさい。

「希望」には、いまだ [I] へのかかわりが含まれ、何らかの変化を引き起こそうとするきっかけがあるので、未来について見通しの悪い現在、人間が [II] を得るうえで、注目すべき理念と考えているから。

(カ) ー線5「いま、私たちに必要なのは、安易に未来を語ることはありません。」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 進歩の時代が終わりきわめて見通しの悪い時代において、未来がつねに決まっていないうことは、不安だけでなく可能性も感じさせるものであると言えるから。
- 2 未来は必ず進歩するものであり、人類が理性の力により無知や野蛮を克服してきたことをふまえると、人の判断を惑わす予測は未来への希望を失わせるものだから。
- 3 過去と現在の延長線上に未来はあり、人口などが未来を左右することをふまえると、不安をもたらす想像よりも客観的な分析こそが確かな未来を語るものだから。
- 4 未来は本質的に見通しの悪いものであるが、社会のリスクを完全になくするのは難しいことをふまえると、規範に基づき人間相互の結びつきを構築していくべきだから。

(キ) ー線6「そのような力をはつきりと見定めるためには、『社会科学』の力が必要なのです。」とあるが、その理由を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

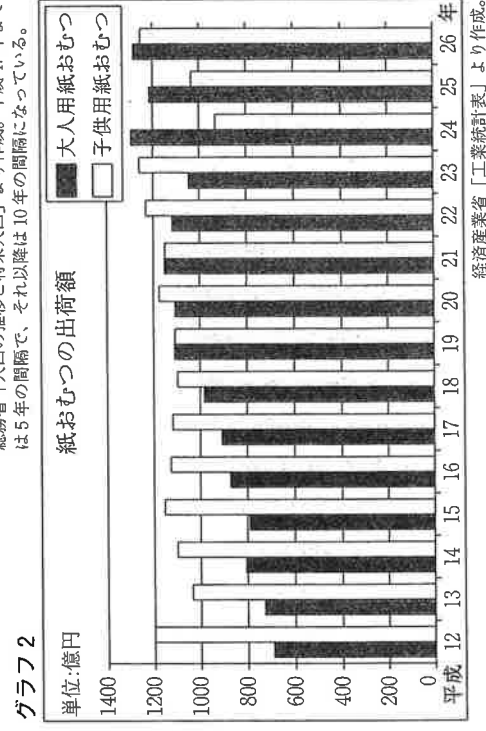
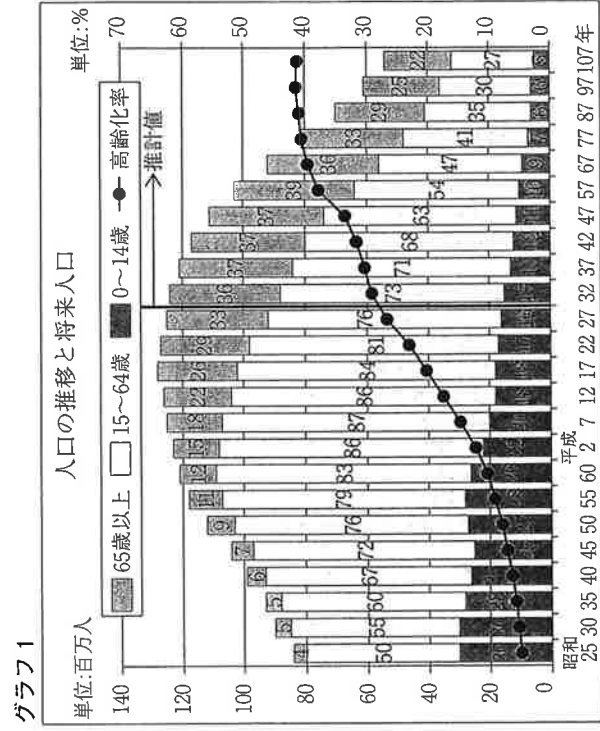
- 1 「いま」の向こうを見ずえるとき、「社会科学」の力で私たちのなかにある希望とは何かを明らかにすることにより、楽観的に生きることができるから。
- 2 「いま」を充実させたいと願うとき、「社会科学」の力によって目の前で進行する危機を偶発的な事象として整理し、自分と切り離すことができるから。
- 3 さまざまな危機に直面する「いま」を変えようとするとき、「社会科学」の力で私たちにできることはどこまでかを、明らかにすることができるから。
- 4 社会保障や財政状況などの危機に対処するとき、「社会科学」の力によって私たちのなかにすでにある力を引き出し、解決策を導くことができるから。

(ク) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 人類の学問の中で「社会科学」が人間の知を明らかにし、未来を予測する研究を通して人間の生活は大きく「進歩」してきたということと、「近代」の歩みを振り返りつつ論じている。
- 2 人類の歴史において自由主義と社会主義が世界の近代化にどのようにかわり、両者の対立がイデオロギ－や革命にどのように影響したかを、「社会科学」の視点で分析しつつ論じている。
- 3 人類の近代化の過程を整理し、「近代」を主導する理念が「進歩」から「希望」に変化したことを、「社会科学」の視点から「幸福」や「未来予測」という概念と比較しつつ論じている。
- 4 人類が「社会科学」の力によって飛躍的な経済成長や発展を遂げた一方で、環境破壊という危機を招くまでの経緯について、近代化がもたらした意味や幸福のあり方を問いつつ論じている。



問五 中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、「総合的な学習の時間」に人口の推移の現状とその影響について調べ、話し合いをしている。次のグラフ1、グラフ2、資料と文章は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。



資料

既存のモノやサービスに対する需要が飽和に達するなら、モノやサービスのリストが変わらな  
 かり、経済全体の成長もやがてゼロ成長に向け収束していかざるをえない。こうして多くのモノ  
 やサービスが普及した「成熟経済」には、常に成長率低下の圧力がかかっている。そうした先進国  
 経済で成長を生み出す源泉は、当然のことながら、高い需要の成長を享受する新しいモノやサービ  
 スの誕生、つまり「プロダクト・イノベーション」である。

今日、日本も含めて世界の自動車産業を牽引しているのは、ハイブリッドカー、電気自動車（E  
 V）、スマートカーなど新しいタイプの自動車だ。時代の要請に応える新しい自動車が新たな成長  
 を生み出しているのである。それは人口と1対1に対応するものではない。

行楽地へ向かう乗り物だった特急列車を長距離通勤用にも走らせる鉄道会社が出てきた。満員電  
 車に長時間乗るよりは、特急料金を払っても指定席に座って通勤したいと考える人たちがいるのだ。  
 そうした人たちのニーズをくんだ特急も、立派なプロダクト・イノベーションである。労働力人口  
 の減少で通勤客数は頭打ちから減少に転じるだろう。しかし、付加価値が高い、つまり客単価の高  
 いサービスを提供すれば、売り上げは必ずしも減少しない。

ここに挙げた例は社会のニーズに応えるプロダクト・イノベーションである。「人口」の下方圧力  
 とは異なる角度から新たな成長を生み出していることが分かる。

(吉川 洋「人口と日本経済」から。一部表記を改めたところがある。)

Aさん 本日は、人口の推移の現状とその影響について考えてみましょう。人口が変化することによって、  
 経済や地域社会、財政などさまざまな影響があるといわれています。

Bさん グラフ1を見ると、ことがわかります。また、資料を見ると、日本はすでに多くのモノ  
 やサービスが普及した「成熟経済」を迎えているそうです。

Cさん そのような「成熟経済」において経済を成長させるために、新しいモノやサービスを生み出す、  
 プロダクト・イノベーションが必要とあります。つまり、時代の要請に応じて世の中になく新しい  
 ものを作ることが、新たな成長を生み出すということです。

Dさん 資料では、ハイブリッドカーや電気自動車が、新しいタイプの車として新たな消費を生み出して  
 いると紹介されています。

Cさん 一方、特急電車を長距離通勤用に走らせる話は、新しいものを生み出した例に当てはまらな  
 いと思います。なぜ、この話もプロダクト・イノベーションと言えるのでしょうか。

Bさん 資料には、新たなサービスの誕生もプロダクト・イノベーションであると書かれています。観光  
 目的で運行している特急電車を、長距離通勤用に活用することにより、社会のニーズに応えたとい  
 う意味で、新たなサービスを生み出したと言えると思います。

Dさん その意味では、グラフ2もプロダクト・イノベーションの一例とすることができます。

Aさん なぜ、そのように言えるのでしょうか。

Dさん Bさんにならって言えば、子供用が主流であった紙おむつを、65歳以上の人口のから  
 です。

Cさん 新しいものを生み出すだけではなく、発想の転換によって新たなサービスを生み出すことも、プ  
 ロダクト・イノベーションなのですね。

Aさん そうですね。ここまで、人口の推移の現状とその影響について話してきましたが、本日の話し合  
 いをきっかけに、柔軟な発想ができるようこれからも学んでいきましょう。

(ア) 本文中のに入れるものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 総人口は平成27年以降に減少し続ける一方で、65歳以上の人口は増え続けることが予想され、総人  
 口の減少を食い止める役割を果たしている
- 2 総人口は平成87年には約七千万人まで下がってしまうが、全人口に占める0～14歳の人口の割合は  
 平成17年と比べて増えている
- 3 総人口は平成17年まで多少の増減はあるものの全体として増加を続けており、15～64歳の人口は一  
 貫して増え続けている
- 4 総人口が最多となる年の二十年ほど前に、0～14歳の人口と15～64歳の人口を合わせた人数が最も  
 多くなっており、その人数は以降減少し続ける

(イ) 本文中のに適する「Dさん」のことはを、次の①～③の条件を満たした一文で書きなさい。

- ① 書き出しの「65歳以上の人口の」という語句に続けて書き、文末の「からです。」という語句につな  
 がるように書くこと。
- ② 書き出しと文末の語句の間の文字数が二十五字以上三十五字以内となるように書くこと。
- ③ グラフ1から読み取れる内容に触れたうえで、「グラフ2もプロダクト・イノベーションの一例」  
 として説明できる理由になるように書くこと。

(問題は、これで終わりです。)



II 国語

正答表並びに採点上の注意 追検査

(平成三十年度)

問一

(ウ)	(イ)	(ア)	
3	a	3	1
	4	きよししょう ていねい	
(エ)	b		
4	1	c	4
	c	4	2
1	d	いこい けんすい	
	d		
2	(イ)		

問二

(ア)
1
(イ)
3
(ウ)
4
(エ)
2

問三

(オ)	(ア)
4	3
(カ)	(イ)
2	2
(ウ)	3
(エ)	
1	

問四

(カ)	(オ)	(イ)	(ア)
1	I	4	2
	実現して		
(キ)	いない	(ウ)	1
3	未来	(エ)	2
	前に進む力		
(ク)	II		

(オ)は両方できて正解。

問五

(イ)					(ア)
からです。	ズ	活用	増加	65歳以上の人口の	4
	に	する	をふま		
	応	こと	え		
	え	に	、		
	た	より	大人用紙		
35	25	社会のニ	おむつ	に	

(イ)は正答例。

五	四	三	二	一	問	計
(ア)4点 (イ)6点 計10点	(ア)2点 他は各4点 計30点	各4点 計24点	各4点 計16点	各2点 計20点	配点	100点

【問題全般について】

- 中間点は、問五(イ)以外には設けないこと。
- 疑問点は複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。

【抜き出し問題について】

- 完全正答とする。誤字・脱字についても減点対象とはせず、誤答とする。

【中間点のある記述問題について】

- 正答例以外であっても、与えられた条件をすべて満たし、問題の趣旨に即した文ならば、正答として六点を与える。
- 内容については、中間点を設けないこと。
- 誤字・脱字(句読点に係る誤りを含む)については、その数にかかわらず二点減点とする。誤字・脱字(句読点に係る誤りを含む)の判断については、校内で統一すること。
- 表現に問題があり、それによって明らかに問題の趣旨から外れている、内容を読みとることができない等の場合は、誤答とする。ただし、許容できると判断した場合は、その数にかかわらず二点減点とする。表現の問題については、複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。
- 中間点は、誤字・脱字(句読点に係る誤りを含む)がある場合と表現に問題がある場合の減点以外は設けないこと。したがって、中間点は四点または二点となる。

○ 問五(イ)について

得点項目A

内容については、次の二点に触れていること。

- (あ) 「(65歳以上の人口の)増加をふまえる」こと。
- (い) 「大人用紙おむつが社会のニーズに応えた」こと。

〈正答例〉

65歳以上の人口の  
割合の増加に伴い発想を転換し、大人用紙おむつとい……う新たな需要に応えた  
からです。 25 35 ……